

# 佐野西中学校区義務教育学校 の整備について

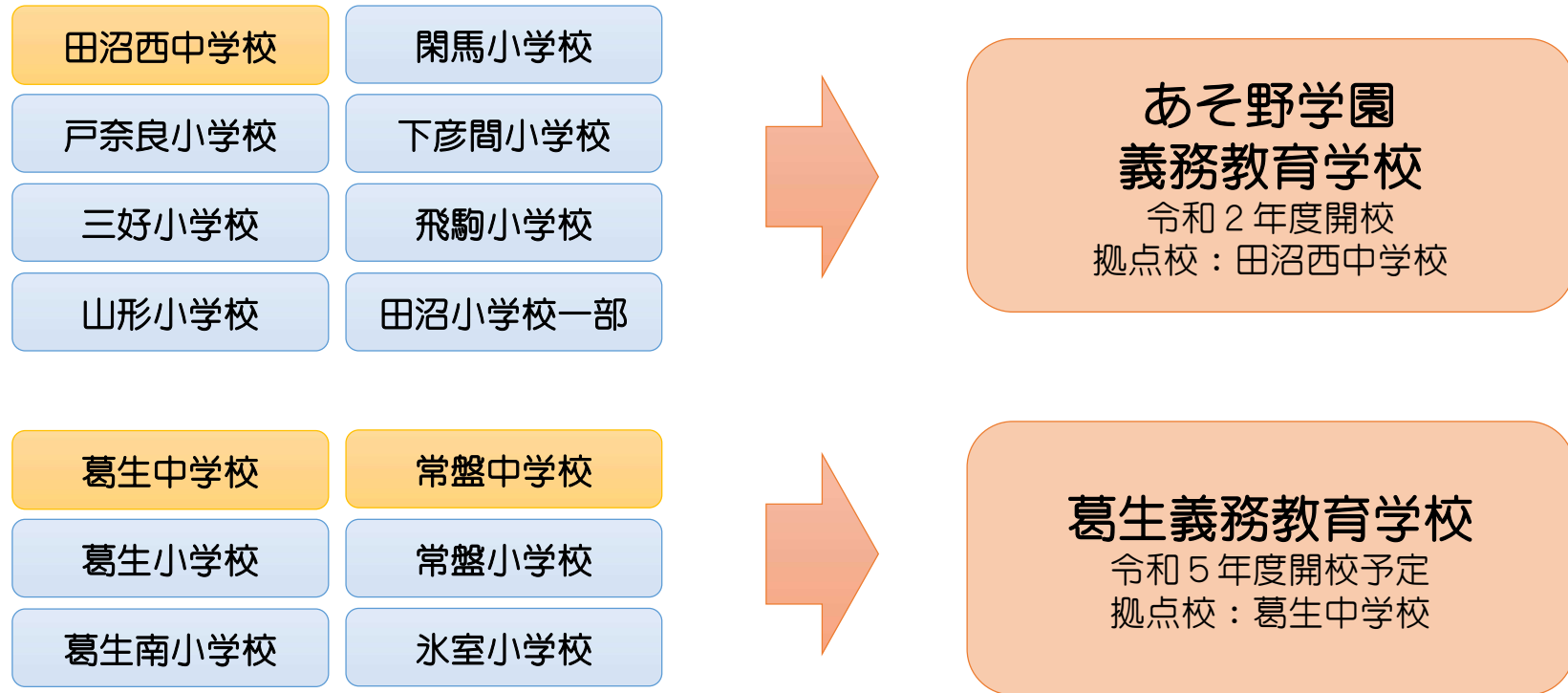
佐野市教育委員会

# 1. 義務教育学校について

## 【義務教育学校とは】

学校教育法の改正を受けて2016年度から設置可能となった、小学校6年間、中学校3年間の義務教育を、9年間の一貫したカリキュラムで運営する新たな学校。

(佐野市の整備状況)



# 1. 義務教育学校について

## 【義務教育学校の一般的なメリット・デメリット】

### 【メリット】

#### 「中1ギャップ」の解消

⇒9年間の一貫教育となることで、小学校から中学校への進学という大きな環境変化（「中1ギャップ」）による不登校や成績不振などの解消が期待される。

#### 学校教育の選択肢が広がる

⇒「学年段階の区切りの柔軟な設定」や「小中教員の相互乗り入れ指導」、「小学校高学年の教科担任制導入」など、児童生徒や地域の実情に合わせて学校教育の選択肢が広がる。

### 【デメリット】

#### 人間関係が固定化しやすい

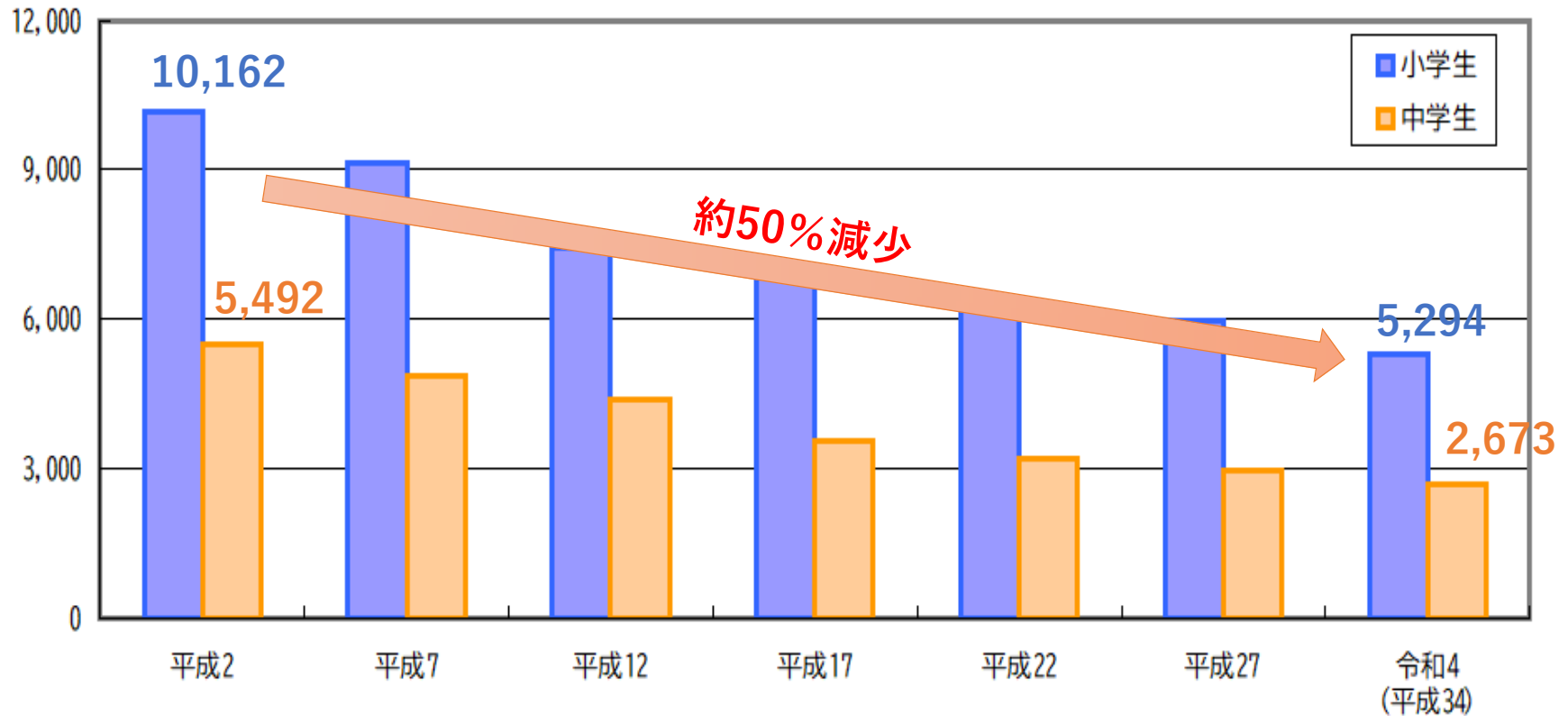
⇒大きな学校環境の変化がなくなることにより、人間（友達）関係が固定化しやすい。

## 2. 義務教育学校整備の背景

### 【佐野市における学校教育の現状と課題①】

#### 児童・生徒数の減少

全国的に少子化が進む中、佐野市においても児童・生徒数の減少による小・中学校の小規模化が進行している。



## 2. 義務教育学校整備の背景

### 【佐野市における学校教育の現状と課題①】

R4. 4. 1現在住基データより作成

学校名		6年	5年	4年	3年	2年	1年	R5 入学	R6 入学	R7 入学	R8 入学	R9 入学	R10 入学
天明小学校	人数	65	76	54	50	42	69	45	58	47	52	48	43
	学級	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
植野小学校	人数	146	144	136	143	152	146	145	123	136	114	118	118
	学級	5	5	4	5	5	5	5	4	4	4	4	4
旗川小学校	人数	30	27	18	27	20	30	20	23	19	17	28	19
	学級	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
吾妻小学校	人数	11	11	17	10	17	6	4	14	7	4	6	7
	学級	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
佐野西中学校	人数	—	—	—	178	178	182	179	170	167	153	165	139
	学級	—	—	—	6	6	6	6	5	5	5	5	4

※ 2つの学年を合わせて16人以下の場合、複式学級（1年生を含む場合8人以下）



全体的に減少傾向にあり、吾妻小学校では複式学級となる見込み

## 2. 義務教育学校整備の背景

### 【佐野市における学校教育の現状と課題①】

#### 学校小規模化による影響

##### 小規模校のメリットとして

- 先生が目が行き届きやすい
- 一人一人の活動機会が多くなりやすい など



##### デメリットとして・・・

##### 「児童生徒」

- ・社会性やコミュニケーション能力を身に付ける機会が少ない
- ・同級生との切磋琢磨により意欲や成長が引き出される機会が少ない
- ・多様な見方や考え方に触れる機会が少ない

など

##### 「学校運営」

- ・クラス替えできず人間関係が固定化しやすい
- ・集団行事の実施が制約される
- ・部活動の種類が限定される
- ・授業で多様な考えを引き出すことが難しい

など

## 2. 義務教育学校整備の背景

### 【佐野市における学校教育の現状と課題②】

#### 学校施設の老朽化

小・中学校の校舎の多くが築40年～50年経過しており、引き続き充実した教育活動を十分に展開していくため、大規模な施設改修等が必要となっている。

令和元年調査時点

施設名	築年数	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全度 (100点)
天明小学校（校舎）	50	D	C	C	C	C	37
植野小学校（校舎）	47	D	C	C	C	C	37
旗川小学校（校舎）	47	C	D	C	C	C	31
吾妻小学校（校舎）	38	C	C	C	B	C	45
佐野西中学校（校舎）	40	C	D	C	C	C	31

※施設部位別にA～Dの4段階評価、総合評価として健全度を100点満点で評価

#### 評価基準

A	良好	B	劣化(部分的)	C	劣化(広範囲)	D	要対応
---	----	---	---------	---	---------	---	-----

# 3. 義務教育学校整備に係る計画の策定

## 【本市の計画】

佐野市立小中学校適正規模・適正配置  
基本計画（前期計画）  
平成27年1月  
計画期間：2014～2022年度

「複式学級の解消」をテーマとして、葛生地区および田沼西地区における施設一体型小中一貫校の整備方針を定める

佐野市立小中学校適正規模・適正配置  
基本計画（後期計画）  
令和元年8月  
計画期間：2023～2047年度

「複式学級の解消」「施設老朽化への対策」「適正規模基準に基づいた通学区域の設定」をテーマとして、市内の小中学校を将来的に施設一体型義務教育学校とし、より一層の小中一貫教育を推進することを定める

佐野市立小中学校適正規模・適正配置  
基本計画（後期計画）  
実施計画（1期）  
令和4年1月  
計画期間：2023～2029年度

後期計画の方針に基づき、2023～2029年度を実施計画期間（1期）とし、佐野西中学校区および城東中学校区義務教育学校の整備方針を定める



# 3. 義務教育学校整備に係る計画の策定

## 【適正規模・適正配置の基本的な考え方と基準】

### ▶ クラス替えができること

多様な考えに触れ、同級生と切磋琢磨しながら学習できる環境を整備

### ▶ 多様な選択ができること

部活動や集団行動など、教育活動における選択の幅を広げる

### ▶ 適切な教員配置ができること

教科ごとにバランスのとれた教員配置により、充実した教育環境を整備

### ▶ 設備等が円滑に利用できること

児童・生徒数の適正化により、施設や設備利用における制限を解消

### 適正規模の基準

- ①小学校は原則 6～18 学級（国の基準では 12～18 学級）
- ②中学校は原則 9～18 学級（国の基準では 12～18 学級）
- ③1 学級は 16 人を下限

### 適正配置の基準

- ①小学校の通学距離…概ね 4 km 以内
- ②中学校の通学距離…概ね 6 km 以内
- ※通学方法は「開校準備委員会」にて検討

# 3. 義務教育学校整備に係る計画の策定

## 【佐野西中学校区義務教育学校の概要】

### ①対象小学校および通学区域

対象小学校	通学区域
天明小学校（一部）	大橋町
植野小学校（一部）	七軒町、赤坂町、君田町
旗川小学校	並木町、免鳥町、小中町
吾妻小学校	村上町、上羽田町、下羽田町、高橋町

②拠点校 : 佐野西中学校

③開校目標年度 : 令和10年4月

④事業期間 : 令和4年度～令和9年度

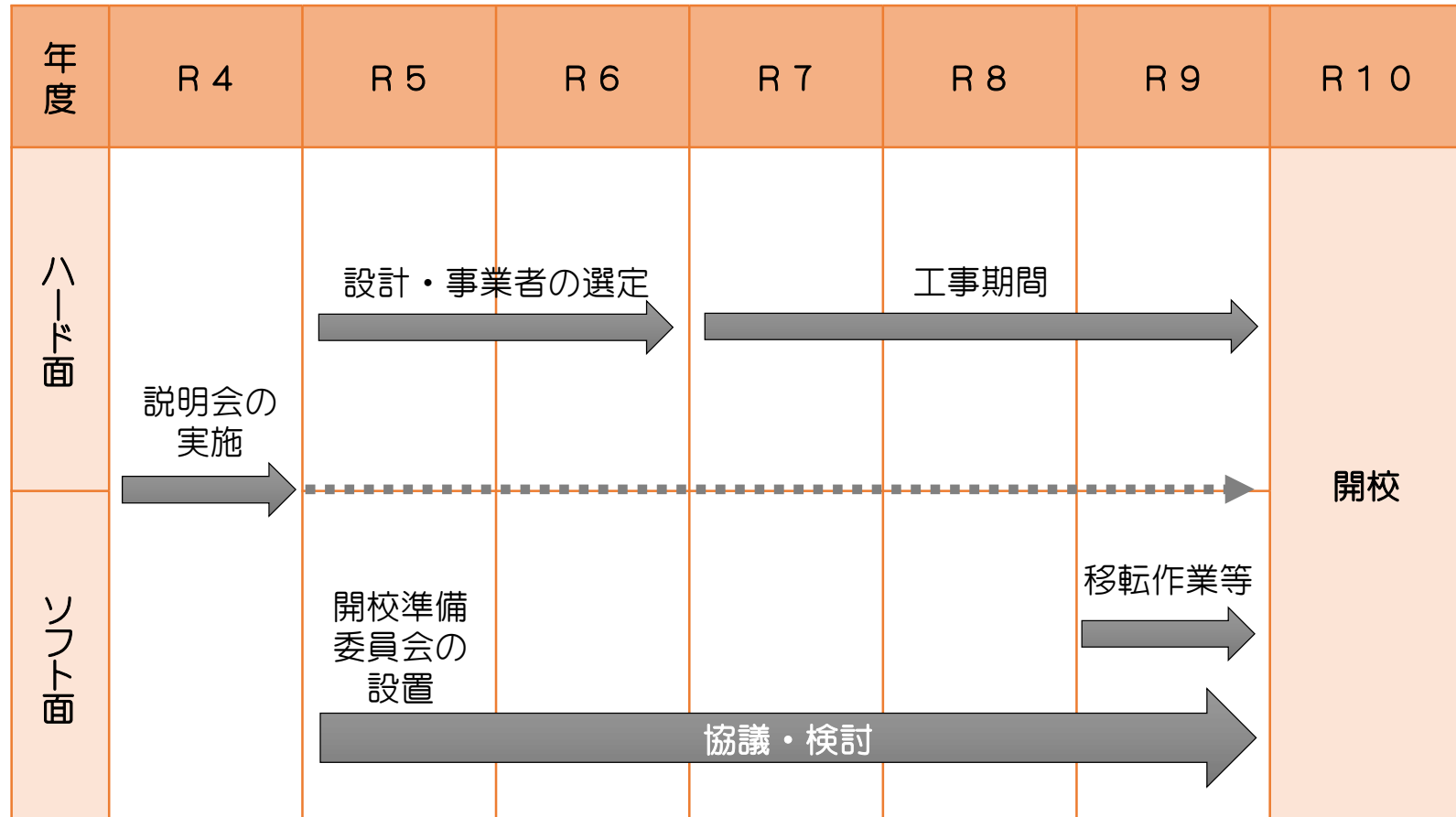
### ⑤開校時の児童生徒数および学級数

学年	1年 (R3生)	2年 (R2生)	3年 (H31生)	4年 (H30生)	5年 (H29生)	6年 (H28生)	7年 (H27生)	8年 (H26生)	9年 (H25生)	計
人数	80	97	82	94	97	99	108	107	103	867
学級	3	3	3	3	3	3	4	4	3	29

# 3. 義務教育学校整備に係る計画の策定

## 【佐野西中学校区義務教育学校の概要】

### ⑥開校までのスケジュール



# 3. 義務教育学校整備に係る計画の策定

## 【開校に向けた組織体制】

### < 検討項目 >

### < 構成 >

